

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会

第2回 荒川流域エリア・ワーキング

議 事 要 旨

■ 日 時：令和2年12月24日（木） 10：00～12：00

■ 場 所：鴻巣市文化センター「クレアこうのす」大会議室A・B

■ 議事要旨

1. 第1回 荒川流域エリア・ワーキングの開催結果について

(1) 議事要旨、指摘対応表の確認【資料1】

- ・第1回ワーキングの議事要旨、指摘と対応表の確認を行った

2. 荒川流域エリア・アクションプランの策定について

(1) 更新箇所の確認【資料2】

- ・第1回ワーキング時の指摘内容を踏まえた更新箇所を示した。

(2) 取り組みの指標種、地域づくりのシンボル種の確認

- ・取り組みの指標種、地域づくりのシンボル種などについて意見交換が行われた。

(3) 目指すべき将来像、目標イメージの確認

- ・目指すべき将来像、目標イメージについて確認を行った。

(4) アクションプランの内容等の確認

- ・アクションプランについて、スケジュール、役割分担について確認を行った。

3. 今後の予定について

- ・今後のスケジュールについての連絡を行った。

■ 配布資料

- ・議事次第／出席者名簿・配席図／規約・委員名簿（WG）
- ・資料1：第1回 荒川流域エリア・ワーキング 議事要旨／指摘対応表
- ・資料2：荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン（案）
- ・資料3：今後のスケジュール（案）
- ・参考資料：アクションプランの具体化イメージ（案）

■ 出席者

構成	氏名	団体名等
学識経験者	浅枝 隆	埼玉大学 名誉教授
	高木 嘉彦	(公財) 埼玉県公園緑地協会 埼玉県こども動物自然公園副園長
市民団体	川島 秀男	特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク 理事
	伊藤 鑄義	特定非営利活動法人 鴻巣こうのとりを育む会 代表理事
関係自治体	大島 和之	鴻巣市 環境経済部 環境課長
	荒井 崇志	桶川市 市民生活部 環境課 係長
	浦 直樹	北本市 市民経済部 環境課長
	関根 正徳	吉見町 農政環境課 主幹
関係行政機関	窪田 美佳	埼玉県 環境部 みどり自然課 主幹
	岩上 秀雄	埼玉県 農林部 農村整備課 主幹
	齋藤 雄太郎	埼玉県 県土整備部 水辺再生課 主事
	米沢 拓繁	荒川上流河川事務所 副所長
事務局	鬼頭 岳彦	荒川上流河川事務所 河川環境課長
	新保 美奈子	荒川上流河川事務所 河川環境課 河川環境係長

■ 議事内容

1. 第1回 荒川流域エリア・ワーキングの開催結果について

(1) 議事要旨、指摘対応表の確認

- －【第1回 荒川流域エリア・ワーキング 議事要旨／指摘対応表】の確認
→意見なし。

2. 荒川流域エリア・アクションプランの策定について

(1) 更新箇所の確認

【資料2】荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン(案)の更新箇所を説明。

(2) アクションプランの内容等の確認

○ 浅枝座長

「エコネット」が、どのように自治体の活動などに関わりがあるのか理解いただくのが難しい思っている。アクションプラン案でも「生態系がもたらす4つのサービス」として説明されている。わかりやすいのは調整サービスに記載の治水の効果がある。

○ 荒川流域ネットワーク

太郎右衛門地区のイベント時に、老人ホームの協力を得て車椅子の方を案内したが、投網でフナをとっているのをみて、感激している方もいた。

○ 浅枝座長

老人ホームの例のように、セラピーとなることも生態系サービスとして重要な役割である。他にも生態系から受けるいろいろなサービスが考えられる。地元の商店街や道の駅など特定の場所でやっている取り組みなどを、エコネットの場所を上手く利用できないだろうか。様々な屋外の自然環境を利用してもらうこともエコツーリズムの一環である。エコネットの場所で生態系を保護する、生物多様性を増やすということが、そこで行われる取り組みのベースとなれば、それも生態系サービスである。

○ 埼玉県県土整備部水辺再生課

埼玉県では、規制緩和の一環で、地元の合意を得た企業は、河川区域内で経営活動ができるようになり、売り上げの一部を河川整備にあてていただいている。清掃活動にご協力もいただいております。今後、中流域においても同様の取り組みが進めば良い。

○ 事務局

太郎右衛門のイベントに、不登校児童を指導している先生が参加されていた。理由を聞いたところ、環境イベントや環境保全活動であれば、不登校児童も参加しやすいのではないかと考えて見に来たということだった。こうした自然環境に関わりたい多様な需要をくみ上げるのは河川管理者だけでは難しい。自治体の多様な部署で把握されている需要を拾い上げていただけると、河川管理者としても協力しやすい。

○ 高木委員

荒川流域でも市ごとに環境に特色があるため、学校等が色々なところを訪問するなど相互交流できるともっと良い。

○ 浅枝座長

自治体単位で考えるより、より広い範囲で考えていくとバラエティが増える。人口が多い場所には人が多い場所のアメニティがあるが、北に行くと自然に溶け込んだアメニティがあり、自然に興味がある方もいて、人工的なものや、歴史的なものにも興味を持つ方もいる。流域に広がれば様々なニーズに対応できると考える。

○ 高木委員

鴻巣市からこども動物自然公園にツアーを組んで来て頂いたり、動物園から講師として鴻巣市の小学校に行ったりしている。また、鴻巣市でのコウノトリの放鳥後には、餌場を周辺の市町につくっていただくというのも良い。そういうところからコウノトリを中心に、取り組みが全体に広がっていけば良い。こうした仕組みができると荒川流域エコネットの地域づくりの肝になる。

○ コウノトリを育む会

資料2の11pにあるように夏みず田んぼの生き物調査を長谷川先生の指導で実施している。また、川から田んぼに上がる魚道を8箇所作っており、調査を予定している。鴻巣市の一部だけでなく、コウノトリの行動範囲は広いので、各地域で魚道などをつくっていただき、どこにどのような動物がいるかわかれば、コウノトリも暮らせるようになるのではないかと。色々な施設を各地で作ってもらいたい。

○ 浅枝座長

様々な興味を持っている方が散らばっているので、上手くまとめられると良い。気軽な学習会の延長で、生き物、治水、歴史的なことを知ることができると、知識を継承する場所になり、安らぎを得る場所にもなる。こうした活動を広げていけるようにすると良い。

また、農産物だけでなく、食堂、レストランなどの食に関してつなげると今後経済活動にもつなげていけるのではないかと。

○ 高木委員

豊岡市のコウノトリ米とか、コウノトリとお米を結びつける話や、鴻巣の川幅うどんなど、そうしたものを広げていくという話だと思う。

○ 荒川流域ネットワーク

関東地域にもコウノトリの人工巣塔（小山市、神栖市等）がいくつかある。荒川流域

にも、少なくとも人工巣塔を吹上や吉見、北本、桶川あたりに1本くらいは立ててみたい。自分自身は吹上の休耕田を借りて、コウノトリの餌となるドジョウを増やしたり、調査する活動を行っている。今後はコウノトリの餌資源としてだけでなく、道の駅の商品の一つにするなど、埼玉県の方とも相談し、検討している。荒川流域にコウノトリの人工巣塔もこの場で建ててもらえれば嬉しい。

○ 事務局

環境と、地域の特産品や既存の観光スポットなどを結びつけることで、新たな素材として地域に貢献することもエコネットの取り組みの重要な要素である。プラン④広報、プラン⑤エコツアー、プラン⑥関係者のネットワークは、連携や結びつきを利用した取り組みとして分かりやすく、効果が得られやすいのではないかと。

○ 吉見町

吉見町の特産など資料に掲載していただいた。北本市と連携した取り組みとして、荒川沿いの活性化も含めてサイクリングに取り組んでいるところである。地域の良いところを連携してPRしていかなければならないと思っており、隣接している北本市、鴻巣市とは協力して取り組んでいく必要がある。特に吉見町からすると、鴻巣市でコウノトリの野生復帰を進めておられるので、今後、餌場や、ドジョウなどを増やす取り組みや教育をしつつ、町のPRにつなげていければ良い。

○ 桶川市

桶川市で令和2年7月に荒川沿いの隣接した川田谷地区に桶川飛行学校平和祈念館をオープンし、メディアに取り上げられ2ヶ月で3,000人くらい来場があったようだ。当館では、桶川市のマップを配布している。市内には紅花の栽培や、うどん販売の建物もあるが、当館のお客さんが市内の観光地を回っているかという点、回っていないだろう。

○ 浅枝座長

観光名所を上手くつなげていくことや、サイクリングマップなどのマップがあるとどこに何があるかわかり、良い。ただし、単独の市だけでなく、他の市も示した方が良い。今は荒川流域がバラバラであり、様々な連携があった方が良く、全体を見渡せるマップが必要である。

○ 事務局

色々な魅力ある場所を自治体間の垣根を越えて、エコネットを上手く活用して、つなげて頂きたい。自治体から、推薦する場所や環境、そこを利用している方、散歩、サイクリングなど、お持ちの情報を事務局に送って頂き、まとめて皆さんに紹介したい。こうした情報を提供する方法やまとめ方のアイデアもいただきたい。その後、集めた情報で地図を作りたい。荒川上流河川事務所では、TwitterやHPがあるので、相互に

紹介するのは問題ない。自治体が広報ツールを使って他の自治体さんを紹介することによって、最終的に環境や自治体に反響が返ってくる仕組みができないだろうか。

○ 浅枝座長

資料2の「7. ロードマップと連携・協働方策」の役割分担として、どこかが事務局になって情報を収集・整理・共有すると自治体から情報が集まりやすくなる。そういう形になれば良い。

○ 北本市

森林セラピー事業はコロナの関係でほとんどできていないのが現状である。企業の方が福利厚生で森林セラピーを体験していただいたようだ。今後、生態系サービスの癒しの部分として、周辺企業の福利厚生として自然環境に触れていただく場をつくりたい。

○ 浅枝座長

自然に関わりたい企業を掘り出すことも必要であり、その後、こうした企業の方々による自然保護活動の取り組み参加につなげていけることになるだろう。中小企業の数が多い埼玉県はその点ですごく恵まれている。こうしたことを是非やっていければ良い。

○ 鴻巣市

コウノトリに力を入れているが、荒川河川敷には、春にポピーやナデシコ、秋にコスモスを植え、花を見に来た方を対象としたスタンプラリーなどの取り組みを行っている。また、花マップや飲食店マップなどを作っている。あくまで市だけのもので、荒川流域としてはやってない。荒川流域で色々な取り組みが出来れば、今後広く進んでいくと感じる。行政以外にも市民団体など色々な意見があるので、取り入れながら進めていけば、自然環境の多様性を含め地域や経済の活性化になるのではないか。

○ 桶川市

どこの市町も、イベントや施設など人を呼ぶ政策には取り組んでいるが、大きな魅力がないと、その場所に特化した興味を持つお客さんしか来ないのが現状である。例えば桶川飛行学校平和祈念館では、東京都内、神奈川、群馬など他方面から来場者があった。メディアに取り上げられ、当館に特化した興味を持つお客さんが来ていると感じた。特に教育施設や子どもに体験していただき、まず興味を持っていただくこと、大きな興味を引くものと一緒に力を併せながらやっていくことが、一つの案である。

○ 北本市

北本市も一つの施設として大勢の人が訪れてくれるような場所はない。各自治体が、

今ある自然や既存の施設を活用して、広域、荒川流域で行うイベントや各種事業を検討していければ良い。類似した事業ではなくても、同時期に開催するものを結び付け、荒川流域の市町村を勧誘できる事業をこういった場で検討できれば良い。

○ 吉見町

多くの人を呼べるものは、「吉見のイチゴ」が挙げられる。これからの時期、イチゴの最盛期になるが、荒川に隣接した東第二地区では施設園芸が盛んで、荒川のおかげで美味しいイチゴが出来る。かつては、桶川、北本に向かう、東松山ー桶川線がイチゴ街道といわれ、道路の両サイドに数十件の農家が店を出し、販売していた。後継者不足で少なくなっているが、まだ美味しいイチゴを提供する農家が店を出している。吉見町の桜堤公園、県の総合運動公園でもイベントを実施しており、他の地域と流域のスタンプラリーができないだろうか。北本市とスタンプラリーをやっているが、流域でスタンプラリーを行うのは非常に良い案である。吉見町にイチゴを買いに来る方も多くいるので、その際に他の所とつながり、PRできれば良い。この流域の縁で、これからしっかり作っていければ良い。

○ 浅枝座長

上手く色々なものを連携することを考えていく必要がある。全体像をマップに落としとして考えてみると良い。

○ 埼玉県環境部みどり自然課

県では地域連携の取り組みを取り持つ仕組み作りとして、核となる県の施設を中心とした機能整備を考えており、集約したデータや色々な取り組みをされる方の橋渡しをする機能も持たせた整備を構想している。今日の意見を参考に、県全体の形にはなってしまうかもしれないが、このネットワークの中の取り組みとしてやっていければ良い。

○ 埼玉県農林部農村整備課

農林部農村整備課では資料2の10pにある「農地の多面的機能支払制度」の支援を行っている。遊休農地を使ったドジョウの養殖は多面的機能支払制度における「遊休農地の解消」の取り組みに該当し、こうした取り組みに期待できる制度である。また、水田魚道、アライグマの鳥獣被害防止も、農地の維持という目的で、同じ制度が適用でき、鳥獣被害の防止では電気柵を作ることも支援できる制度である。環境関係の方々にはあまり制度の説明は行っていないが、農政関係の市町村の担当課には多面的機能支援事業として説明を行っている。地元の活動団体として農家が主体となる組織の制度である。引き続き県として、支援することを考えているので、何かあれば、積極的に声をかけていただきたい。

○ 浅枝座長

埼玉県はかなり昔から農業があつて、それによって環境が作られてきている。だから上手く農業と環境を一緒に進めるのが良い。あまり農業と環境を分けて考える必要はない。

○ 埼玉県県土整備部水辺再生課

入間川の県管理区間の事業として「川の国応援団」という制度で、河川敷にヒガンバナなどを植栽し見に来ていただくウォークラリーを地元の市と西武鉄道とのコラボレーション事業で行っている事例がある。自治体連携によるスタンプラリー、ウォークラリーをやっていただく場合は、地元のボランティア団体や企業を交えると経済効果や波及効果が生まれるだろう。

○ 浅枝座長

関係団体を上手くつなげば結構良いものになるのではないかと。そうした全体の関係図があると良い。全体の図とストーリーにつながりを見せれば、全体をみて理解しやすい。生態系サービスでは全てがプラスではなくマイナスもあるかと思うので、全体としてバランスが取れれば良い。

○ 事務局

資料2の8pの「ねらい」は色々な生態系サービスがあり、4つのサービスの中で、例えば美味しいお米や川魚、田んぼが洪水を低減、もしくは癒しの場というような環境がもたらす色々なサービスを具体的に書いたつもりである。最終的なキャッチコピーは「自然と治水」とし、多くの自然のサービスの効果として治水という形で書いた。今日の色々な意見から、それ以外にも色々な地域のつながりをつくるのにも役立ち、農業や外来種の駆除にもつながり、様々な生態系がもたらすサービスを生じるだろう。8pの図は、取り組みがどこに寄与するかわかるように整理し、それぞれのアクションプランに取り組める形で考えていきたい。修正したものは皆さんにご相談させていただきたい。

3. 今後の予定について

・ 今後の予定等について

○ 荒川上流河川事務所 新保係長

【資料3】今後のスケジュール（案）を説明。

・ 閉会の挨拶

○ 荒川上流河川事務所 米沢副所長

多様な意見を頂き、アクションプランをまとめる方向性が見えてきた。今日頂いた意見を基に最終案をまとめ、提示する予定である。コロナ禍の状況も踏まえ、書面開催の可能性も含め、協議会などの開催形態を検討したい。今日も様々な視点でご意見をいた

だいた。一番のキーワードは「つながり」である。生態系のみならず、関係者がより一層連携していくことが非常に重要である。一方、この取り組みを多くの方に知っていただくことで、本日出席いただいている担当部署以外の行政部署に関心を持っていただき、広くつながっていくことができるだろう。

引き続きよろしくお願ひしたい。

以 上